

全日本ビーチバレーボール 大学選手権大会 優勝

日本体育大学4年

石川とわさん

ビーチバレーボール部

Profile

2002年 上分町生まれ
上分小→川之江南中→三島高校→日本体育大学

主な戦績

2023年 全日本ビーチバレーボール大学選手権大会 ベスト4
2024年 関東大学ビーチバレーボール選手権大会 ベスト4
2024年 全日本ビーチバレーボール大学選手権大会 優勝

インドアからビーチへ

小さい頃から周りの子より背が高く、運動神経も良い方でした。小学3年生の時、地元のバレーボールチームの体験会でチャホヤしてもらったことに気を良くして、バレーを始めました。でも、それが体験会の時だけだと、すぐに知ることになります(笑)。

中学生の時には、JOCジュニアオリンピックの選手に選ばれ、高校でもバレーボール部に入学しました。転機が訪れたのは高校1年生の時です。JOCで私のプレーを見たビーチバレーボール協会の方から、部を通じて体験会へのお誘いがありました。

初めて体験したビーチバレー(ビーチ)は、自分がバレーボール(インドア)で築き上げてきたものが通用しない、全く未知の領域でした。インドアでは6〜9人で分担するレシーブからトス、スパイクまでの連携をビーチではたった2人で、しかも砂の上でしなければなりません。負けん気な性格から、スパイクばかり磨いてきた私は、戸惑いの連続でした。それでも練習を重ね、高校2年生の時にはマドンナカップと茨城国体に出場し、アジア選手権の日本代表にも選ばれました。「もっとビーチが上手になりたい」と、高校卒業後は全国

からレベルの高い選手が集まる日本体育大学へ進学し、ひたすら練習に打ち込みました。

2人で掴んだ「日本一」

令和6年8月、これまでビーチに打ち込んできた全てを懸けて挑んだ「全日本ビーチバレーボール大学選手権大会(全日本インカレ)」で、私がペアを組んだのは1年生の松崎伊吹さん(茨城県出身)でした。インドアとは違い、ビーチでは試合が始まるとコーチから指示やアドバイスを受けることができせん。2人で状況を分析し、2人で作戦を立てます。入学して間もない1年生とのペアに不安がなかったわけではありませんが、練習中はもちろん、プライベートでもコミュニケーションを図り、最終的には「姉妹のようだ」と周りから言われるほど絆を深めました。

そして迎えたインカレ本番。途中、松崎さんが足をつるという厳しい局面もありましたが、「最後まで楽しもう」を合言葉に2人で戦い抜き、念願の日本一を勝ち取りました。大学生活の集大成を最高の結果で終えることができたのは、紛れもなく松崎さんのおかげです。

過酷だけど面白い

ビーチには心技体の全てが要求されます。夏は灼熱、冬は凍るような砂の上で、たった2人

で戦い続ける精神力と体力、また、攻守両方の技術力が必要です。更には、瞬時に戦術を考え、頭脳も必要です(小声)。でも、一番大切なことはペアとの連携です。どんな状況でも、2人で助け合いながら運命を共にするという強い信頼関係が勝利を引き寄せます。これこそがビーチの最大の魅力だと思っています。

もうひとつの夢に向かって

学生時代に関わっていた先生方の影響で、高校生の頃から将来は教員になりたいと思っていました。そんな先生方のように、卒業後も教員から慕われる教員になるために、日々勉強に励んでいます。

もちろん、教員になってもビーチには関わりたいと思っていて、私がそうであったように、ビーチに魅せられ、そしてビーチで魅せる選手を故郷・四国中央市から輩出したいです。



全日本インカレで優勝し、喜びを見せる石川さん(写真右)と松崎さん(同左)。